

第4回 東静岡地区まちづくり協議会 議事録

1. 日 時 令和7年5月22日(木) 13:30~15:00

2. 場 所 静岡市役所 静岡庁舎 本館3階 第1委員会室

3. 出席者 別紙 委員名簿のとおり

4. 傍聴者 10人

5. 報告

(1) アリーナの整備に向けた取組状況
意見なし

(2) 交通渋滞対策の取組状況

・(飯田委員) 国道1号の交差点における信号現示の調整を市と連携しながら行っているが、信号現示の調整だけで大々的に交通が改善するようなことはない。自動車交通を分散させる対策と合わせて行っていくことが必要であり、引き続き市と連携しながら取組を進めていく。

(3) 用途地域等の変更に向けた取組状況

・(柴委員) 国道1号北側と南幹線の南側のエリアの用途地域を工業系から商業系に変更するとのことだが、変更に向けた検討状況を教えてほしい。
→(事務局) 以前の協議会を踏まえ動き出したところであり、地域代表者や用途地域変更による影響の大きい事業者に対してヒアリングを行っている。その結果を踏まえ、柔軟に対応していきたい。
→(遠藤委員) 用途地域の変更に向けて、都市計画審議会に諮るタイミング等は決まっているのか。
→(事務局) まだ決まっていない。

・(杉山委員) 旧東海道沿いの商業は撤退してしまいほとんど残っていない。また昔ながらの農道が残っているなど基盤が弱いこと等の状況を踏まえると、今更用途地域を変更する必要もないと考えている。
→(柴委員) 実質的には工業地域でなくなっているが、将来的にはどのように考えているのか。
→(事務局) 地域の状況は把握している。地域と意見交換を行いながら、地域の住環境を維持できるよう慎重に検討を進めたい。

(4) 新県立中央図書館の整備に向けた取組状況
意見なし

6. 議 事

○東静岡地区まちづくり基本構想(案)について

・(田宮委員) 現在住んでいる人へのケアも必要ではないか。基本構想は来訪者がメインになっているように捉えられる。

→（事務局）P10にめざす将来像を示しているが、日常と非日常の両面からまちづくりを進め、来訪者だけでなく地域に住んでいる方が快適で住みやすい環境の形成を掲げている。

→（遠藤委員）アリーナ建設等の人が集まるようなプロジェクトが基本構想の柱になっていることは間違いないと思う。

→（事務局）アリーナや図書館の整備がきっかけではあるが、今住んでいる人たちの環境も含めてより良いまちを目指していきたい。

→（遠藤委員）アリーナ等の整備による交通需要の変化など生活環境に関連する影響は出てくると思う。今後、基本計画をまとめる際には指摘された視点を考慮する必要がある。

・（杉山委員）地区内にマンションが多数存在し、20年前に建てられたマンションでは居住者の高齢化が進んでいる。今後東静岡が居住地として人気が出て世代交代が進むことが望ましく、それは自治会運営の面でもプラスになる。静岡中心部のドーナツ化現象が進んでもよくないため、静岡都心との連携が必要である。また、地区内にバンダイが立地していることは地区の強みであり、バンダイを核としたまちづくりの検討も必要である。

→（遠藤委員）バンダイに限らず、他の事業も巻き込んでいくことが望ましい。

・（中村委員）東静岡は「文化・スポーツ」がテーマになっているが、図書館の整備の有無によってテーマが崩れてしまう恐れがあり心配している。アリーナは静岡の人口を増やすことに寄与するものだと思う。地区内の用途地域について、工業系用途地域が指定され工業を営んでいる方もいるが、だいぶ少なくなっているように感じる。将来的にその方々が継続できるのかなど、将来を見据えて用途の変更を検討してもらいたい。

→（柴委員）商業系用途地域への変更を検討されているが、マンション等の整備を促すなど居住者を増やすことを主眼に取り組んでも良いのではないかな。また、東静岡駅に新幹線を停車することはできないか。遠方からのアクセス性が向上し、集客の効果は大きくなる。

→（事務局）商業系の用途地域でも住宅は立地可能である。用途地域変更と合わせて高度利用が図れるよう容積率を上げることも検討している。

・（大木委員）長沼立体部分の検討は進んでいるのか。

→（事務局）検討段階であり、静岡国道事務所と連携して取り組んでいる。事業時期や手法は明確になっていない。

・（杉山委員）休日は地区内で渋滞が発生しており地域住民の不満も大きい。取組は進められていることは認識しているが、引き続き国道1号を含め交通渋滞の解消に向けた取組を進めてもらいたい。

→（飯田委員）市と交通渋滞の解消に向けた取組は進めているところだが、信号現示の調整では限界があり、交通分散も合わせて検討していくことが必要と捉えている。

- ・(柴委員) 谷津山は東静岡の資源であり、保全・利活用に向けた積極的な取組を期待している。
- ・(石川委員)「若者や子どもが、夢や希望を持てるまちづくり」はとても素敵なタイトルである。一方で具体的な取組のイメージが思い浮かばなかった。子供同士の出会いや多くの体験ができる場所になると良いと思う。
- (事務局) 科学技術高校などの教育機関と連携しながら、まちづくりを進めたいと考えている。基本計画の中で具体的な取組を検討していきたいと考えているので、またご意見をいただきたい。
- (石川委員)「地域への関心や愛着の醸成」の文言は一般市民にとって分かりづらいと感じた。
- ・(西委員) 若者が地域に関わるにはハードルがあり、間をつなぐコーディネーター役が必要である。また、学生としては入りやすく、抜けやすいコミュニティの形が望ましい。具体的な取組を検討する際には学生と直接意見交換できると良い。
- ・(平井委員) これまでの協議会の内容が反映されており、わかりやすく整理されている。一方で情報が多いので、市民に周知することを考えると概要版を整理できると良い。多世代の居場所づくりが大事なところであり、今後深度化してもらいたい。また広場は大きければ良いということではなく、使い方を考慮した設えの工夫が必要である。交通に関する取組は「AI オンデマンド」だけなのか、もう少し幅広く整理できると良いのではないか。めざす将来像において、東静岡だけでなく、静岡、清水と連携して市全体の魅力を高めることが示されており、これが市にとって望ましい姿だと思う。
- ・(池谷委員) わかりやすく整理されている。良質な民間投資を促し、居心地のよい空間を形成するためには、統一感を持った景観形成も必要であると思う。交通の観点では交通の全体像を描きつつ、既存のモビリティと連携して新たなモビリティがどのような役割を果たすのかを明確にできると良いと思う。
- ・(遠藤委員) 私の方から4点ほど指摘をさせてもらう。
 - ① P12において「産学官の連携」と示しているが、「民」を加え「産学官民」とすることで、西委員の指摘も組み込めるのではないか。
 - ② P24において「都市計画の見直し」とされているが、具体的な取組として用途地域の変更を特出しした整理になっているが、高度地区や地区計画など他の要素も読み取れるよう表現を工夫しておいた方が良い。
 - ③ P25のタイトルにおいて、「保全」を付け足した方が良い。
 - ④ P26において「都市開発」はデベロッパーが行う大きな開発というイメージが強いので、「～を活用した新たなまちづくり」などの言葉に変更してはどうか。
- (事務局) ご指摘を踏まえ、再検討したい。

以上